

II 講義要綱

他学部共通開講科目の講義要綱は、開講学部のを参照してください。

1. 総合教育科目

文学(2単位) 担当者:文学部教授 松村 友視

2010SS収録 配信回数 全13回

■講義要綱

「近代文学の中の〈知〉と〈想像力〉」

近代日本文学はその出発期から、近代的・合理的な〈知〉を背景とするリアリズムを基本的な方法として選択した。しかし他方、文学は、つねにリアルな世界から飛躍する〈想像力〉をその源泉としてもいる。

このような観点からいくつかの作品をとりあげ、その内容および文化的・社会的な背景を分析しながら、リアリズムと合理を前提とする近代のパラダイムの中で〈知〉と〈想像力〉が担っていた意味について考える。

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載する。

■参考文献

講義内容に応じて示す。

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、5月上旬と下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

歴史(日本史)(2単位) 担当者:文学部教授 浅見 雅一

2012年SS収録 配信回数 全12回

■講義要綱

「日本近世の対外関係」

大航海時代には、カトリック教会は、イベリア両国という世俗の権力と密接に結びつきながら海外布教を推進した。ローマ教皇がイベリア両国の海外への勢力拡大に権威を与え、その代わりに両国を後ろ盾としてカトリック宣教師達が海外に進出していったのである。ポルトガルは、アフリカからインドや東南アジア方面に進出し、16世紀中葉には日本にまで到達した。かくして、日本においてキリスト教の布教が開始されたのである。ポルトガル人が初めて日本に渡来してから江戸幕府による「鎖国」に至るまでの約1世紀は、キリシタン時代と呼ばれる。この時代の日本の対外関係をカトリック教会の布教事業を軸として捉えてみたいと思う。

■テキスト

五野井隆史『日本キリスト教史』(吉川弘文館、1990年)(市販書採用科目「日本史特殊II」テキスト)

■参考文献

高瀬弘一郎『キリシタンの世紀—ザビエル渡日から「鎖国」まで—』(岩波書店、1993年)

浅見雅一『フランシスコ＝ザビエル—東方布教に身をささげた宣教師—』(山川出版社、2011年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、5月上旬と下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

社会学(2単位) 担当者:文学部准教授 近森 高明

2012年SS収録 配信回数 全11回

■講義要綱

自由にふるまっているつもりが、じつは不自由なゲームに閉じこめられていた。抑圧からの解放を目指す行動が、いつの間にか新たな抑圧を生みだしていた。合理を追求する試みが、知らないうちに非合理的な仕組みを作りだしていた——。多数の人間からなる社会は、こうした種類の「意図せざる結果」に満ちている。十九世紀にはじまる社会学のあゆみは、私たちの生を支えると同時に、それを裏切ってしまう社会の不透明な成り立ち、社会の不可解な厚みを、どうにか理解しようとする試みの軌跡であった。その軌跡を振り返ることにより、社会学という学問がもつ思考の特質を考察してみたい。

社会学の基本的な考え方を、著名な社会学者のオーソドックスな学説や命題を追いながら紹介してゆく。たんに知識を詰め込むだけでなく、学んだ概念や命題をじっさいに周囲の事例に応用できる、生きた社会学の思考スタイルを獲得することが目標となる。意外性や非自明性に満ちた、社会学的思考の〈面白さ〉を実感してもらうため、できるだけ多くの具体的事例をあげながら説明をすすめる。

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載する。

■参考文献

作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』(筑摩書房、2011年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、5月上旬と下旬に課題と締切日をお知

らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

自然科学概論(2単位) 担当者:法学部教授 秋山 豊子

2012年SS収録 配信回数 全12回

■講義要綱

現在の生物学で重要なテーマである遺伝子や発生、ガン、免疫や老化の仕組みなど、ヒトを含めた動物の身体の中の仕組みや、最近注目されたiPS細胞やES細胞などについて講義します。現代の生物学を理解し、そこから生じる社会的な問題提起を考えるよい機会としてください。

スクーリング6日分、各日2回分の計12回分の講義です。

- 1.2 生物の概念 発生と発生工学、iPS細胞
- 3.4 遺伝子の動き 遺伝子の複製と遺伝情報発現
- 5.6 遺伝病と遺伝子治療、遺伝子診断
- 7.8 ガンの生物学 発ガンの仕組み
- 9.10 免疫の仕組み エイズ、アレルギー、花粉症
- 11.12 成長と老化 授業のまとめ

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載する。

■参考文献

種田保穂・秋山豊子共著『“生きる”ってどういうこと? 生命のしくみを探る生物学』(培風館、2006年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、5月上旬と下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

■履修上の要望または受講上の前提条件

下記のような興味や関心があり、熱意と好奇心を持つかたに聴講をおすすめします。

- 1.現在の生物学の状況について興味があること
- 2.生きものが生きている仕組みに不思議を感じていること
- 3.自分の体の仕組みや健康に関心があること
- 4.「遺伝子」について興味があること

2. 文学部専門教育科目

教育学特殊(2単位) 担当者:文学部教授 松浦 良充

2011SS収録 配信回数 全11回

■講義要綱

「比較教育学から見た大学・高等教育改革」をテーマとする。現在、日本をはじめとして、世界の各地で大学改革が進行している。なぜ改革が盛んになっているのか。その背景にはどのような要因があるのだろうか。また日本の大学改革はどのような方向に進むのだろうか。こうした課題について、比較教育学の観点から検討する。まず最初に比較教育学の理論と方法について簡単に概説した後、日本の大学改革の動向および大学・高等教育研究の概要を把握する。さらにアメリカ合衆国をはじめとする海外の大学・高等教育改革の動向について検討する。それらを通して、今後の日本の大学・高等教育改革を展望したい。受講学生はこの授業を、自らの大学観を再構築する機会として活用してほしい。

■テキスト

安原義仁ほか『大学と社会』(放送大学教育振興会、2008年)

■参考文献

金子元久『大学の教育力』(ちくま新書、2007年)

天野郁夫『大学の誕生』(上)(下)(中公新書、2009年)

二宮皓『世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』(学事出版、2006年)

学校教育研究所編『諸外国の教育の状況』(学校図書、2006年)

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、4月下旬と5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

西洋史概説(2単位) 担当者:文学部教授 神崎 忠昭

2010SS収録 配信回数 全13回

■講義要綱

古典古代末期から中世の終わりまでのヨーロッパの歴史を概観します。以下に、全13回分の講義内容(予定)を簡単に記します。

- 1) 序論:ローマの遺産
- 2) ゲルマン諸王国
- 3) フランク王国
- 4) 「暗黒時代」:封建社会
- 5) 神聖ローマ帝国

- 6) 11世紀の教会改革
- 7) 教皇権
- 8) 学芸の復興
- 9) キリスト教の浸透
- 10) ルネサンス
- 11) 国民国家
- 12) 宗教改革
- 13) ヨーロッパの成立

■テキスト

その都度教材をE-スクーリングシステム内の授業ページに掲載する。

■参考文献

山本茂他編『西洋の歴史〔古代・中世編〕』（ミネルヴァ書房、1988年）

■課題(レポート)提出

1回実施。

E-スクーリング所定の画面にて、5月下旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

■受講上の要望または受講上の前提条件

総合教育科目「歴史(西洋史)」を履修していることが好ましい。

3. 経済学部専門教育科目

近代日本と福澤諭吉(2単位) 担当者:経済学部教授 小室 正紀 他

2012収録 配信回数 全14回

■講義要綱

福澤諭吉が近代日本に最も大きな刺激を与えた思想家の一人であることに異論を唱える者は少ない。しかしそれにもかかわらず、福澤が唱えた人間や社会の在り方は、その後の日本社会で必ずしも実現したわけではない。むしろ、その多くは未完のまま現代にまで残っている。福澤が提起した諸問題にどう答えるかは、実は現代のわれわれの問題と言ってもよい。

その福澤諭吉の人と思想を、本講義では多面的に考察する。近代において人間はいかなる存在であるべきか。この点は、福澤の家庭教育観や教育思想に強く現れている。近代精神の根本に自然科学的な知性を見ていたことも福澤の近代人観を考える上で無視できない。また、社会を形成する原点として、新たな男女や家族の在り方を主張した。旧体制の身分にこだわる者達には近代社会における人間の在るべき姿を説き続けた。

さらに、そのような人間観や社会観を基礎として、現実の政治に対しても発言を

つづけた。あるいは、近代社会における法とは何かを示そうとした。人間が独立するための極めて重要な領域として経済についても論じた。また、経済活動の中心として近代経営を紹介し、経営のあるべき姿を説いてもいた。

本講義は、通信教育部経済学部の講義であるが、上記ように多領域にわたる福澤の思想を、経済をも含めて総合的に考察する。専門化が進み、時として知性の蜻壺に陥りかねない今日、本講義が諸科学や諸思想の関連性を認識する一助となることを願っている。是非、経済学部のみでなく文学部や法学部の学生諸君にも履修していただきたい。

なお、講義は以下の章立てならびに担当者により進める。

コーディネーター	小室正紀(経済学部教授)
1. 総論:福澤諭吉の生涯と「独立自尊」	同 上
2. 福澤諭吉の士族観	西澤直子(福澤研究センター教授)
3. 福澤諭吉の女性論・家族論	同 上
4. 福澤諭吉の教育思想(1)	米山光儀(教職課程センター教授)
5. 福澤諭吉の教育思想(2)	同 上
6. 福澤諭吉の家庭教育	山内慶太(看護医療学部教授)
7. 福澤諭吉と医学	同 上
8. 福澤諭吉の内政論	都倉武之(福澤研究センター准教授)
9. 福澤諭吉の外交論	同 上
10. 福澤諭吉と法文化(1)	岩谷十郎(法学部教授)
11. 福澤諭吉と法文化(2)	同 上
12. 福澤諭吉の経済論	小室正紀(経済学部教授)
13. 福澤諭吉の経営思想・近代企業論	平野 隆(商学部教授)
14. 福澤諭吉と福澤山脈の経営者	同 上

■使用テキスト

『近代日本と福澤諭吉』慶應義塾大学出版会、2013年3月末刊行予定

* 詳細は「ニューズレター慶應通信」3月号でお知らせします。

■参考文献

(全 章)『福澤諭吉著作集』慶應義塾大学出版会、2002～2003年

慶應義塾編『福澤諭吉事典』慶應義塾大学出版会、2010年

(第1章)福澤諭吉『福翁自伝』(著作集・第12巻)慶應義塾大学出版会、2003年

(第2章)小川原正道著『福澤諭吉の政治思想』慶應義塾大学出版会、2012年

(第3章)西澤直子『福澤諭吉と女性』慶應義塾大学出版会、2011年

(第4章)・(第5章)

山住正己編『福澤諭吉教育論集』岩波文庫、1991年

山住正己校注『日本近代思想大系 6 教育の体系』岩波書店、1990年

(第6章)渡辺徳三郎『福澤諭吉 家庭教育のすすめ』慶應義塾大学出版会、

(第7章)『東京人(特集「日本細菌学の父 北里柴三郎」)』2012年7月増刊

- (第8章)丸山真男『福沢諭吉の哲学』岩波書店、2001年
 (第9章)青木功一『福沢諭吉のアジア』慶應義塾大学出版会、2011年
 (第10章)・(第11章)
 (第12章)藤原昭夫『福澤諭吉の日本経済論』日本経済評論社、1998年
 (第13章)福沢諭吉『民間経済録・実業論』(著作集・第6巻)慶應義塾大学出版会、2003年
 (第14章)宮本又郎『企業家たちの挑戦』(日本の近代11)中央公論社、1999年

■課題(レポート)提出

2回実施。Eスクーリング所定の画面にて、4月中旬と5月上旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

産業関係論(2単位) 担当者:商学部教授 八代 充史

2011ES収録 配信回数 全18回

■講義要綱

この講義では、産業関係論の様々な側面の中で特に労務管理について講義を行う。労務管理とは、市場経済で最大利潤の獲得を目的にした企業が、どうしたら従業員を合理的に活用し、また彼らのやる気を高めることができるかを研究する学問である。ここでは、労務管理を、①理論、②実態、③国際比較、の3つの側面から論ずることにしたい。

- 第1講 労務管理の諸概念
- 第2講 労働市場と労務管理
- 第3講 労務管理の組織—人事部門・人事制度
- 第4講 労務管理の諸領域—(1)募集・採用
- 第5講 労務管理の諸領域—(2)配置・異動
- 第6講 労務管理の諸領域—(3)昇進・昇格
- 第7講 労務管理の諸領域—(4)人事考課
- 第8講 労務管理の諸領域—(5)賃金
- 第9講 労務管理の国際比較

■テキスト

八代充史『人的資源管理論—理論と制度—』(中央経済社、2009年)

■参考文献

八代充史・南雲智映『ライブ講義 はじめての人事管理』(泉文堂、2010年)

■課題(レポート)提出

2回実施。Eスクーリング所定の画面にて、5月上旬と6月上旬に課題と締切り

日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

4. 法学部専門教育科目

民事訴訟法(2単位) 担当者:大学院法務研究科教授 中島 弘雅

2010SS収録 配信回数 全13回

■講義要綱

この講義では、民事訴訟における当事者や利害関係人の手続関与権を重視する立場から、訴えの提起に始まり、判決の確定をもって終了するいわゆる判決手続について、下記のテキストによりつつ概説を行う。ただし、時間の関係で、第五章、第六章については、簡単にしか触れることができないであろう。

本講義の内容は、以下の通りである。

第一章 民事訴訟の世界

第二章 訴えの提起

第三章 民事訴訟の審理——口頭弁論

第四章 第1審の判決

第五章 第1審後の訴訟の推移

第六章 訴訟中における手続の中断および請求・当事者の変動

第七章 裁判によらない訴訟の終結

■テキスト

山本弘・長谷部由起子・松下淳一『民事訴訟法』(有斐閣アルマ、2009年)

■課題(レポート)提出

1回実施。E-スクーリング所定の画面にて、5月中旬に課題と締切日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況

■受講上の要望または受講上の前提条件

この講義を受講するため、学生は、民法特に財産法、商法特に会社法の講義をあわせて受講していることが望ましい。

国際政治論(2単位) 担当者:法学部教授 細谷 雄一

2011SS収録 配信回数 全11回

■講義要綱

本講義では、現代の国際政治の構造を理解することを目的とする。21世紀に入って

国際社会は混沌とし、混迷を続けている。そして、超大国アメリカの力の揺らぎや中国の台頭、宗教的な対立に直面し、われわれは旧来の国際社会が大きく変容していると語っている。それでは、何がどのように変わりつつあるのか。そのような問題意識を前提として、国際政治の多様な問題を扱い、それぞれの領域での基礎的な理解を深めたい。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. イントロダクション | 8. 国際機構 |
| 2. 世界をどう見るか？ | 9. ナショナリズム・宗教・文明 |
| 3. 国際政治学の発展 | 10. リージョナリズム |
| 4. 国際社会の成立 | 11. グローバリズム |
| 5. 戦争と平和 | 12. 日本外交の行方 |
| 6. 国際安全保障 | 13. 総括 |
| 7. 国際政治経済 | |

■テキスト

細谷雄一・水澤達宏編『国際学入門』（創文社、2004年）

■参考文献

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2009年）

高坂正堯『国際政治』（中公新書、1966年）

中西寛『国際政治とは何か』（中公新書、2003年）

細谷雄一『外交—多文明時代の対話と交渉』（有斐閣、2007年）

藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007年）

中村研一『地球的問題の政治学』（岩波新書、2010年）

クレイグ＝ジョージ＝ローレン『軍事力と現代外交〔原書第4版〕』（木村修三ほか訳）（有斐閣、2009年）

ジョセフ・S・ナイ『国際紛争 理論と歴史〔原書第7版〕』（田中明彦・村田晃嗣訳）（有斐閣、2009年）

■課題(レポート)提出

2回実施。E-スクーリング所定の画面にて、5月初旬と5月中旬に課題と締切り日をお知らせします。

■成績評価方法

- 試験の結果による評価
- 課題(レポート)による評価
- 授業の視聴状況